

PDA も Wintel に？

現在、パソコンの世界では Microsoft 社の Windows と Intel 社のマイクロプロセッサの組み合わせが事実上の標準になっている。いわゆる Wintel の世界である。では、これから本格的に普及が始まろうとしている PDA(Personal Digital Assistant)の世界はどうなるだろうか？

従来 PDA の世界では Palm Computing の Palm OS を使ったものが一番多かった。同社の PDA の他、Handspring、IBM、ソニー等がこの OS を使ってきた。

一方、Hewlett-Packard、Compaq、カシオ等は Microsoft の Windows CE をベースにした Pocket PC を使っていて、昨年来、東芝、NEC、日立がこの陣営に加わった。

また日本で最も早く PDA に参入したシャープの Zaurus は独自の OS を使ってきた。

これらは今後どうなっていくのだろうか？

PDA は、パソコンと違い、趣味や遊びのためでなく、仕事のために使う人が圧倒的に多いはずだ。そのため、オフィスで使っているパソコンとのデータの受け渡しのしやすさ、操作方法の統一性が非常に重要になる。現在オフィスで使われているワープロや表計算のソフトは Microsoft の Word や Excel が圧倒的に多いので、PDA はこれらのソフトとの親和性のよさが決め手になるだろう。もちろん、PDA でパソコンと同じことができる必要はなく、PDA ではワープロや表計算ソフトの基本機能だけ使えればいい。

Microsoft の Pocket PC はパソコンの Word や Excel と親和性の高い Pocket Word や Pocket Excel を用意しているので、この点非常に有利である。

また、PDA にとって重要なアプリケーションである PIM(Personal Information Management)やブラウザやメール処理ソフトについてもパソコンと親和性が高いものが望まれる。そして、スケジュール管理やアドレス帳は相互に容易に同期化が図れること、つまり最新データをコピーできることが重要である。

この点からも Windows 系の OS は有利である。しかし、市場の覇者になるためにはこの他にもいくつかの条件がある。

そのひとつは、パソコンの場合と同様に、アプリケーション・パッケージの品揃えの豊富さである。品揃えを豊富にするためには、パソコンと同じようにアプリケーション・プログラムのインターフェイスを公開し、他社が自由にアプリケーション・ソフトを提供できるようになる必要がある。例えば、PIM やブラウザやメール処理ソフトには、いろいろ特徴のあるものが考えられるので、これらをすべて OS にくくりつけて、1社ですべて独占しようとしてもうまく行かないだろう。

もうひとつの条件は、PDA で見やすいウェブサイトが数多く揃うことである。PDA はウェブサイト閲覧の重要な道具のひとつになるが、現在のパソコン用のウェブのページは大きすぎて

PDA では見にくいいため、今後 PDA を主対象にしたサイトがどんどん作られるだろう。それが、例えば Palm の 160x160 ドットの画面を主対象にしたものになるか、Pocket PC の縦 320x 横 240 ドットの画面を主対象にしたものになるかが問題である。

さらにもうひとつの条件は携帯電話の機能を兼ね備えていることだろう。ポケットに PDA と携帯電話と両方入れて持ち歩くのは不便だし、両者の機能はオーバーラップするものが多いので、PDA を持ち歩けば携帯電話は要らないことが望ましい。

これらの問題があるので、まだどの PDA が事実上の標準になるかは分からない。しかし、現在のところ Pocket PC が一番いい位置づけにいるのは確かだ。もしこれが事実上の標準になると CPU は Intel の StrongARM になる。またもや Wintel である。

現在 Pocket PC 系の PDA の泣き所は使用時間が 12 時間程度と短いことである。単に PDA として使うときは、一日中電源を入れっぱなしにして使うことはないので、これでも一応実用に耐えるだろうが、携帯電話兼用で電源を入れっぱなしにすると、これではいかにも短すぎる。しかし、半導体の技術が進歩すれば、いずれこの問題は解決するだろう。

どれが勝ち残るかは別にして、PDA の世界でも現在のパソコンと同じように、事実上の標準が決まっていくだろう。シェア競争に勝ったところが圧倒的に有利になるのはパソコンと同じだからだ。

OS とか CPU の LSI とか、キーになる製品の供給元が 1 社に絞られるのは、競争原理が働かなくなるという意味では好ましくない。しかし、仕様が統一されることにより、量産効果で価格が安くなり、技術的にも安定し、アプリケーション・ソフトや周辺機器の選択肢も広がるので、ユーザーにとってメリットも大きい。

そして、事実上の標準が決まれば、現在のパソコンと同じように、PDA のメーカー間の差はほとんどなくなり、台湾や中国の製品が市場を支配するようになるだろう。

では、PDA はパソコンと同じような巨大な市場を創出するだろうか？

たしかにビジネスマンは、従来手帳を背広のポケットに入れていたのと同じように、今後は PDA をポケットに入れて持ち歩くようになるだろう。しかし、ビジネスマンが全員 PDA を持つようになったとしても、たかだか一人 1 台である。一方パソコンは、自宅のほか、いくつかの職場を兼務していれば、その職場ごとに 1 台持ち、さらに出張用にノート型のパソコンを持つようになるため、一人で 3~4 台使うのは当たり前になるだろう。

そしてパソコンは、PDA を使わない主婦や子供も一人 1 台は使うようになる。

従って、PDA が普及しても、その生産台数はパソコンには到底かなわない。しかも PDA の価格はパソコンより安いので、市場の売り上げ規模としてはパソコンより 1 桁以上小さいものにしかならないだろう。PDA が普及すると言っても、この点は頭に入れておく必要がある。